

実践報告

「見る」を引き出す母性看護学教育における取り組み

新名(中村)美佳¹⁾、川内恵美子²⁾、西村明子²⁾

1) 昭和大学江東豊洲病院、2) 兵庫医科大学看護学部

Efforts in Maternal Nursing Education to Elicit Nursing

Mika NIINA (NAKAMURA)¹⁾, Emiko KAWAUCHI²⁾, Akiko NISHIMURA²⁾

1) Showa University Koto Toyosu Hospital

2) School of Nursing Hyogo Medical University

抄 録

新型コロナウイルス感染症は、看護師等養成所における臨地実習に大きな変革をもたらした。対象と関わる時間が制限される臨地実習においても、学生の見る力を引き出すことができるように、兵庫医科大学看護学部における2022年度の母性看護学教育では実習の先行科目から計画的な介入を試みた。主な取り組みは、①文章と映像を組み合わせた事例の作成、②看護展開のポスター発表およびWeb上での共有（グループ毎）、③Educationalプランを実践する模擬患者演習（学生毎）の3点である。②と③では、①で作成した事例を使用した。

映像を取り入れた事例について、学生からは肯定的な意見を得た。学生は映像から対象の状況を細やかに見て感じ取り、観察できていた。それは具体的なEducationalプランに繋がっていた。看護展開のポスター発表やEducationalプランの実践では、学生は互いにフィードバックを得て学びを深めることができたと考える。

今回の取り組みは、新型コロナウイルス感染症に関係なく、学生の看護実践能力を高めるための方策として今後の活用が期待できる。新型コロナウイルス感染症禍で構築した新たな学修プログラム、技術、環境を活用し、学生の見る力を磨き引き出せるようにプログラムの改善に取り組む必要がある。

キーワード：見る、母性看護学、観察、実践、臨地実習

I はじめに

「見る」とは見守る、世話をする意味で使用され、辞書の冒頭には「対象をよく見る」と記載されており、観察の意味も含まれる¹⁻³⁾。ナイチンゲール著の看護覚え書において、良い看護とは以下のように記されて

いる。

良い看護というのは、あらゆる病気に共通することまごまとしたこと、およびひとりひとりの病人に固有のこまごまとしたことを観察すること、ただこの2つだけで成り立っている⁴⁾。

見る力を磨くためには、観察と実践を繰り返しながら

ら内省する必要がある、文章や書物をもとに行う講義や演習では限界がある。だからこそ看護基礎教育において臨地実習は不可欠である。母性看護学の対象が経験する妊娠や出産は、病気ではなく生理的な現象である。そのため、対象にとって固有に生じる身体的・心理的・社会的なことがらを細やかに見て総合的に推察し、言語的・非言語的コミュニケーションを駆使して、親となる過程を支える術を学ぶことが臨地実習において重要となる。

しかしながら2020年に発生した新型コロナウイルス感染症により、看護師等養成所における臨地実習は中止や変更を余儀なくされた。同年6月には文部科学省および厚生労働省より「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う看護師等養成所における臨地実習の取り扱い等について」^{5,6)}の通達があり、必要な知識及び技能を修得するために、可能な限り臨地に近い状況の設定をしたうえで、学内演習等を臨地実習に代えて実施することが認められた。以降2022年度まで同様の対応が求められ、臨地実習の質の維持を図り、学生らが学修目標⁷⁾を達成できるプログラムを構築することが、各看護系大学に課せられた。

兵庫医科大学看護学部3年次に行う母性看護学実習については、同法人の大学病院での実習を継続できた。しかし、2020年度まで4日間行っていた病棟での実習を2日間に短縮し、さらに対象との接触時間が必要最小限になるよう留意する必要がある、学生が対象と関わる時間は大幅に短縮されることとなった。そのため、

対象との関わりが制限される状況においても、学生が対象固有のことがらを注意深く見て、看護実践へ繋げることができるよう実習前からの工夫が必要だと考えられた。

そこで、2022年度の母性看護学教育では3年次後期の母性看護学実習の学修効果を高めるための取り組みを、母性看護学実習の先行科目である3年次前期の母性看護学援助論から計画的に行ったため、本稿にて報告する。

Ⅱ 科目の位置づけ

1. 母性看護援助論および母性看護学実習の概要

母性看護援助論は、母性看護学実習の前提科目として3年次前期に配置されている専門科目である。学生は母性看護援助論において周産期における看護実践に向けた基礎的能力を修得し、母性看護学実習に臨む。両科目の2022年度の一般学習目標と達成目標を表1に示す。

2. 授業展開

1) 母性看護援助論



全30コマの構成は周産期に関連する講義・TBL・グループワーク・発表を24コマ、母性看護技術演習2コマ、事例展開のグループワーク・発表を4コマと、例年と同様であった。ただし、事例展開のグループワーク・発表については内容を大幅に変更した。主な変更点は、①学生の観察力を高めるために事例に映像を組

表1. 関連科目の一般学習目標と達成目標（シラバスより抜粋）

	母性看護援助論	母性看護学実習
一般学習目標	事前学習とグループワーク、学習成果の発表や技術演習を通して、周産期(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期)に焦点をあてた看護実践が展開できる能力を習得する。妊娠した女性は妊娠、分娩、産褥、育児へと移行していく過程において、身体的、心理的、社会的な変化を経験する。その変化を学ぶと同時に、妊娠婦と新生児を家族の一員としてとらえ、家族の発達と健やかな成長発達をもたらす看護を学習する。	母性機能が最もダイナミックに変化する周産期にある母と子、その家族のウェルネスに向けて看護を実践できる基礎能力を習得し、母子保健システムにおける看護職者の役割と機能を理解する。また、周産期における倫理的課題や生命の尊厳について考察する。
達成目標	(1) 周産期の母子とその家族の身体的・心理社会的特性について説明できる。 (2) 母性看護学の基盤となる概念を列挙し説明できる。 (3) 周産期にある女性とその家族の具体的な事例について、ウェルネスの視点で看護計画の立案を行うことができる。 (4) 母性看護学の課題と課題の解決方法について例をあげて説明することができる。	(1) 周産期における生命の尊厳や倫理的課題を考えることができる。 (2) ウェルネスの視点で看護課題を明らかにし、適切な看護を実践し、評価できる。 (3) 周産期における対象者の特徴をふまえて、看護の基本技術を的確に実施できる。 (4) 周産期における対象者の特徴をふまえて、適切にコミュニケーションを図り、対象者と信頼関係を築くことができる。 (5) 実習をととして自己の看護を振り返り、課題を見出すことができる。

表2-1. 事例Aの概要

産褥日数	1日目	分娩時間	9:00-23:50
分娩歴	1経産	分娩時出血量	1140g
不妊治療歴	なし	夫の分娩立会	あり
妊娠合併症	なし	児の状態	良好
職業	会社員	母乳の希望	こだわりなし
分娩方式	経膈分娩	サポート	夫、実父母


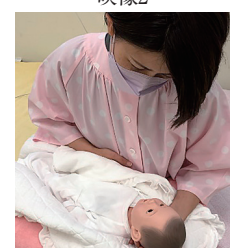
映像部分の文章 (抜粋)	映像1 	映像2 
	産褥1日目2:00-9:00 2-3時間毎に授乳のため訪室するも、起き上がることはできず、側臥位で助産師が付き添って数分授乳を行う。授乳は慣れた手つき。児の吸啜はうまくできたりできなかったり。	産褥1日目9:00 室内は消灯されたまま熟睡している。朝食は手つかずで残されている。「ハア。もう朝なんです。赤ちゃん授乳しないとだめですか？」

映像作成のポイント	児の抱き方など育児手技は安定した慣れた手つきだが、体が思うように動かず覇気がない。
-----------	---

事例のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ A氏は9:00-23:50の分娩を終えての産褥1日目である。分娩の状況、分娩時出血、分娩後の様子から身体の状態を正しく捉えることができるか。 ・ 強みはなにか。 ・ 育児、清潔、休息など、なにをどこまで優先して介入する必要があるか。
---------	--

表2-2. 事例Bの概要

産褥日数	3日目	分娩時間	— (手術のため)
分娩歴	初産	分娩時出血量	810g
不妊治療歴	あり	夫の分娩立会	待合室待機
妊娠合併症	切迫早産 辺縁前置胎盤	児の状態	良好
職業	自営の手伝い	母乳の希望	できれば母乳
分娩方式	帝王切開分娩	サポート	夫(自営業)

映像部分の文章 (抜粋)	映像1 	映像2 
	産褥2日目 「動くとき痛いです。何度も赤ちゃんの服が濡れて着替えさせています。それだけですごく時間がかかる。」 慣れない手つきでおむつ交換や授乳を行っている。	産褥3日目 「今日はお風呂の練習もありますね。家ではどこで入れるかも決めていない。」

映像作成のポイント	創部痛がありスムーズに動くことができない。育児も痛みのため、ポイントを押さえて実行できないが、児に優しく声をかけながら行う。
-----------	--

事例のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ B氏は妊娠合併症のため入院加療を経て正常産で予定帝王切開分娩を行っている。妊娠に至るまでの経緯、妊娠期の状況から出産・育児への準備状況を捉えることができるか。 ・ 強みはなにか。 ・ 痛みに配慮した実践ができるか。
---------	---

み込んだこと、②実践の前段階として重要なケア計画をグループ毎にポスター形式で発表し、学生と教員よりフィードバックを得る形式としたことである。事例展開では、母性看護援助論の目標（表1）を達成するために、異なる3つの事例（表2-1～3）を準備した。1クラスを5～6人/グループに分け、グループ毎に3つの事例の1つを指定した。学生は自己学習の後、看護展開のグループワークを行い、最後にポスター発表の時間を設け、学生および教員からフィードバックを得られるようにした。また、ポスターは母性看護学実習中に閲覧できるようにWeb上で共有した。

2) 母性看護学実習

母性看護学実習の構成を表3に示す。工夫点は、最終日に模擬患者演習を行い、Educationalプランの実践に取り組んだ点である。模擬患者は教員が演じた。学生はひとりひとり計画したEducationalプランを実践し、他の学生が発表する際には見学しフィードバックを行った。

学内実習の2日間は、最終日のEducationalプランの実践に向けた準備として学生は事例展開を行った。事例は2-1)の母性看護援助論で用いたものと同じも

のを使用した。ただし、母性看護援助論で展開した事例以外の2事例から個々の学生に自由に選択させた。

ポイントは、実習グループの中に同じ事例を選択する学生がいたり、母性看護援助論で既に同事例を展開した学生がいたことである。事例展開とEducationalプランの実践は個人の課題としたため、自己の考えに固執してしまう可能性があった。そこで、母性看護援助論で他者が作成したポスターを閲覧できるようにし、学生からの質問に対しては他の学生の発言も促すなど、学生同士で意見交換を行いやすい状況を教員が意図的に作ることでピア効果をねらった。

Ⅲ 教材の作成


1. 教材の構成

前述したように、3つの事例（表2-1～3）を作成した。臨地実習において学生が遭遇しやすく、細やかな観察が必要となると考える場面については、意図的に文章と映像を組み合わせて作成した。例えば、おむつ交換において、文章では「慣れない手つき」とだけ示し（表2-2）、実際慣れない手つきで行っている様子を映像化した。

表2-3. 事例Cの概要

産褥日数	2日目	分娩時間	8:00-18:35
分娩歴	初産	分娩時出血量	370g
不妊治療歴	なし	夫の分娩立会	間に合わず
妊娠合併症	なし	児の状態	良好
職業	主婦	母乳の希望	完全母乳
分娩方式	経膣分娩	サポート	夫、実父母(里帰り)、義父母

映像1



映像部分の文章
(抜粋)

産褥2日目
ベッドに座って悲しそうな表情で授乳している。児の洋服やおむつが脱げそうにはだけている。

映像作成のポイント

「母乳が出ていない」、「児はミルクの方が好きみたい」など、すべてをネガティブに捉えて発言する。児の抱き方、抱え上げは危なげな手つきで行う。

事例のポイント

- ・C氏は妊娠中に夫の立会分娩、母乳育児の希望を強く持っていた。しかし、立会ができず、授乳も本人が納得できる状況にない。対象が感じているギャップを理解できるか。進行性変化や授乳の状況を正しく捉えることができるか。
- ・強みはなにか。
- ・ますます自信を喪失してしまうことがないように、自己肯定感が高まるように関わることができるか。

2. 映像の作成

学生が事例に関心を寄せることを目的に、主演は母性看護援助論を担当する教員3名が担当した。学生に映像から学びとって欲しいポイントを効果的に演じることができることも、教員が主演を担当するねらいであった。慣れない手つきでおむつ交換を行う手元の映像だけでは、「おむつ交換ができていない」と学生はアセスメントしてしまう。そこで、表情・児との関わり方・訴えについても教員は工夫して演じ、文章の情報と合わせて学生が総合的にウェルネスの視点でアセスメントできるような事例とした。

また、映像は学生が早送りせずには繰り返し視聴しても苦にならないよう30秒～3分程度に編集した。

Ⅳ 評価

1. 学生からの意見

映像を取り入れた事例に関する学生の声として、「映像があると全然違う。大丈夫かなとか、リアルに感じた。」「産後のお母さんがこんなにしんどいんだということが分かった。」「実際の様子をイメージできた。」「文章ではよく分からない痛みの強さや、(育児について)困っている状況が分かった。」「手つきとか細かいところが分かる。」というものがあつた。

2. 観察と実践の状況

学生の取り組みに対する教員の所感について述べる。

1. の学生からの意見からも窺えるように、学生は文章だけでは十分に表現しにくい疲労感や痛みの状況、育児の様子を、映像から細かに見て感じ取り、観察できていた。そして情景の中に身を置き、それぞれの事例において対象の育児がどうしてうまくいって

ないのか、できていることや強みは何かを具体的にアセスメントしていた。

模擬演習では、アセスメントをもとに、今の対象に、何を・どこまで・どのような方法で伝えることが適切か考え、工夫を凝らした具体的なEducationalプランを思考し実践できていた。例えば同じ授乳に関するプランであっても、それぞれの対象で全く違う視点で実践していた。対象Aについては休息も大切であることを伝え、対象Bには痛みを考慮した授乳姿勢を説明し、対象Cに対してはまず希望や今の思いを傾聴することから始めるといった、対象の状況に応じた工夫が見られた。また、どの事例においても共通して、対象の頑張りを認め、ウェルネスの視点を持って関わることでできていた。

2日間の病棟実習においても、観察にもとづいて具体的な看護計画を立案し、受持ちに個別的な関わりを実践できた学生が多くいた。

V 考察

2022年度、新型コロナウイルス感染症は世界的に終息傾向にあったが、実習における臨地での感染対策は2021年度と大きく変わりはなかった。

母性看護学教育では、対象と関わる時間が制限される臨地実習においても、学生の看る力を引き出せるように実習の先行科目から計画的な介入を試みた。

学生の意見および観察と実践の状況より、映像を組み込んだ事例は、対象をよく見る力を高めるために効果的であったと考える。

臨床では文字からの情報だけで看護展開を行うことは決してない。もちろん医師記録や看護記録、検査データから得る情報は有用であるが、それだけでは不十分である。目の前の対象に、より良い看護を実践するためには、今の状況を実践者自身がよく見る必要がある。今回、文章だけではなく映像から情報を得ることで、事例展開での看護計画がより具体的なものとなった。さらに看護計画をポスター形式で発表し、他者の発表を目にし、互いにフィードバックを得ることで、学生は学びを深め定着することができたと考える。その結果が臨地実習に繋がり、短時間の対象との関わりの中でも、ウェルネスの視点で対象をとらえ、個別的な看護計画を具体的に立案し、実践に繋げることができたのではないかと推察された。

2日間の病棟実習中にはEducationalプランの実践まで至らなかった学生もいたが、展開した事例の

表3. 母性看護学実習の構成

内容	日数(日)
学内：事前オリエンテーション	0.5
学内：直前オリエンテーション、演習	1
産科病棟	2
産科婦人科外来	0.5
小児科外来	0.5
NICU・GCU	1
助産所	1
学内：事例の展開	2
学内：Educationalプランの実践、実習のまとめ	1

Educationalプランを模擬患者演習で実践し、他の学生と教員からフィードバックを得る経験を全員ができたことは、見る力を磨くことに繋がったと考える。

以上より、母性看護援助論から母性看護学実習までをととした今回の取り組みは効果的であったと考える。

また、今回の取り組みの副効果として、学生同士が学び合うチャンスを多く作ることができた。臨地実習では、学生が看護実践する姿を、他の学生が見学できる機会は殆どない。さらに新型コロナウイルス感染症禍においては、学生が気軽に会話することもままならず、体験した出来事を共有することさえ難しい状況があった。

今回、架空の事例ではあるが、学生同士で考えを共有して意見を交換しながら事例を展開し、互いの実践する姿を見てフィードバックし合えたことは、学生の成長を高めるために相乗効果をもたらしたのではないかと考える。

Ⅵ 今後の展望

今回の取り組みは、新型コロナウイルス感染症禍において母性看護学実習の学修効果を高めるために講じたものであったが、新型コロナウイルス感染症に関係なく、学生の看護実践能力を高めるための方策として今後の活用が期待できる。

新型コロナウイルス感染症は、看護師等養成所における臨地実習に大きな変革をもたらした。今後も、どのような状況下においても学生の学びを促進できるように、教員は時勢に応じた柔軟な対応ができるよう備えていく必要がある。この3年間で構築した新たな学修プログラム、オンライン講義の技術、シミュレーターを含む学内演習環境を活用し、学生の「見る」力を磨き引き出せるようにプログラムの改善に取り組む必要がある。

文献

- 1) 米山寅太郎, 鎌田正. 新漢語林第2版. 大修館書店, 2011, 1952p., ISBN978-4-469-03163-8.
- 2) 長尾直茂監修. 標準漢和辞典第7版. 旺文社, 2023, 1248p., ISBN978-4-01-077739-8.
- 3) 松村明監修. デジタル大辞泉第2版. 小学館, 2012, ISBN978-4-09-501213-1.
- 4) フロレンス・ナイチンゲール, 薄井担子, 小玉香津子, 看護覚え書改訳第7版. 現代社, 2011, 308p., ISBN978-4-

87474-142-9.

- 5) 事務連絡, 令和2年6月22日, 新型コロナウイルス感染症の発生に伴う看護師等養成所における臨地実習の取扱い等について. 厚生労働省. <https://www.mhlw.go.jp/content/000642611.pdf>, (参照 2023-06-17).
- 6) 事務連絡, 令和2年6月23日, 新型コロナウイルス感染症の発生に伴う看護師等養成所における臨地実習の取扱い等について(周知). 文部科学省. https://www.mext.go.jp/content/20200624-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf, (参照 2023-06-17).
- 7) 看護学教育モデル・コア・カリキュラム～「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学修目標～. 文部科学省. https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/_icsFiles/afieldfile/2017/10/31/1397885_1.pdf, (参照 2023-06-17).